

第6章 保健体育

第1	教科目標，評価の観点及びその趣旨	保 - 1
第2	各科目の評価の観点の趣旨	保 - 1
第3	必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	保 - 2
	体育	保 - 2
	保健	保 - 1 0
第4	単元の評価に関する事例	保 - 1 6
	体育	保 - 1 6
	保健	保 - 2 2

第6章 保健体育

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ，健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して，生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとする。また，個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して，運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え，工夫している。また，個人生活や社会生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断している。	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに，体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し，知識を身に付けている。また，個人生活及び社会生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。

第2 各科目の評価の観点及びその趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体 育	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう，公正，協力，責任などの態度を身に付けるとともに，健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して，活動の仕方を考え，工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに，運動の技能を高めている。また，自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ，運動技能の構造と運動の学び方，体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。
保 健	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断している。	/	個人生活及び社会生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。

第3 必修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

体育

1 目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容

科目「体育」においては、学習指導要領の「体育」の内容の、「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 陸上競技」、「D 水泳」、「E 球技」、「F 武道」、「G ダンス」、「H 体育理論」を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

(1) 自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。

ア 体ほぐしの運動

イ 体力を高める運動

(2) 体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようにする。

(3) 自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、楽しさや心地よさを味わえるよう互いに協力して進んで運動をしようとする。また、健康や安全に留意して運動をしようとする。	自分の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫している。	自分の体力や生活に応じて、体力を合理的に高めるための運動ができる。	体づくり運動の意義や適切な行い方、心身への効果を理解するとともに、ねらいに即した体づくり運動の組み立て方を理解し、知識を身に付けている。

【「A 体づくり運動」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の体や心の状態に気付き、体の調子を整え、仲間と交流することを大切にして体を動かす楽しさや心地よさを味わおうとする。 仲間と協力して、互いに 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体力水準や健康状態に適した運動を選び、構成している。 グループで運動を構成したり、施設や用具を効果的に利用し 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動に関連する体力及び健康に関連する体力の向上に必要な運動を身に付けたり、合理的に体力を高めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動、体力を高める運動の意義について、言ったり、書き出したりしている。 体ほぐしの運動の行い方、体力を高める運動の行い方及び体力の高

<p>思いやりながら、進んで運動に取り組もうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の必要性を意識し、正しく受け止め、進んで体力を高めようとする。 ・自分や仲間の体の状態を意識するとともに、運動をする上で施設や用具の安全に留意しようとする。 	<p>たりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践内容やその効果をとらえ、運動の内容や方法を見直したり、新しい運動を選んだりしている。 	<p>め方について、具体例を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動や体力を高める運動のねらいに即した運動の多種多様な組み立て方、活用の仕方について、具体例を挙げている。
---	--	--

*なお、「体ほぐしの運動」は、技能の獲得・向上を直接のねらいとするものではないことから、運動の技能の観点から削除している。

(2)「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

(1) 自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、技が円滑にできるようにする。

- ア マット運動
- イ 鉄棒運動
- ウ 平均台運動
- エ 跳び箱運動

(2) 互いに協力したり補助したりして練習ができるようにする。また器械・器具を点検し、安全に留意して練習や発表ができるようにする。

(3) 自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<p>器械運動の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよう互いに協力して進んで練習に取り組もうとする。また、器械・器具を点検し、安全に留意して練習や発表をしようとする。</p>	<p>自分の能力に応じた技を習得するための課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や演技の構成、発表の仕方を工夫している。</p>	<p>器械運動の特性に応じた技能を身に付け高め、技を組み合わせる演技ができる。</p>	<p>器械運動の特性や技術の構造を理解するとともに、技の確かめ方、補助の仕方、練習の計画的な行い方、演技構成の仕方を理解し、知識を身に付けている。</p>

【「B 器械運動」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・技の達成や演技のできばえを求める器械運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・仲間と協力して補助し合ったり、教え合ったりしようとする。 ・練習や発表で、お互いの技や演技のできばえのよさを認め合おうとする。 ・器械・器具の状態を確かめるとともに、適切な場づくりや体の調子に気付くなど、安全に気を配ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の技能に応じた技を選択したり、組み合わせたりして技を円滑に行うための課題を設定している。 ・課題解決に必要な、練習や場づくりの仕方を選んだり、見付たりしている。 ・課題の達成状況をとらえ、練習や発表の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じた技を身に付け高めるとともに、できる技を繰り返して技を安定させることができる。 ・できる技や新しく身に付けた技を組み合わせる演技をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の技の系・技群・グループの構造、技の系統性や発展性について、言ったり、書き出したりしている。 ・器械運動の楽しみ方や学習の進め方、練習の仕方や場づくりの方法、練習計画の立て方、技のできばえの確かめ方について、具体例を挙げている。 ・技の特徴や運動種目ごとの特性に合った演技構成の仕方、発表の仕方について、具体例を挙げている。

(3)「C 陸上競技」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。
 ア 競走
 イ 跳躍
 ウ 投てき
- (2) 互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。
- (3) 自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようにする。また、競技会の企画や運営ができるようにする。

【「C 陸上競技」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
陸上競技の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるよう互いに協力して進んで練習や競技に取り組もうとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、体の調子や活動場所及び器具など、健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。	自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や競技の仕方を工夫している。	陸上競技の選択した種目の特性に応じた技能を身に付けるとともに、その技能を高め、競技をしたり記録を高めたりすることができる。	陸上競技の選択した種目の特性や技術の構造、合理的な練習方法、正しい競技方法、競技規則や審判法及び競技会の企画や運営の方法を理解し、知識を身に付けている。

【「C 陸上競技」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全力をつくして競争したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・ 練習や競技で、よりよい記録ができるように、互いに励まし合ったり、協力をしたりしようとする。 ・ 自分や仲間の勝敗や記録の結果を受け入れようとする。 ・ 体の調子を確かめ合ったり、練習や競技場所及び器具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の能力に応じた目標記録や課題を定めている。 ・ 課題解決に必要な、合理的な練習や競技の方法を選んだり、見付けたりしている。 ・ 課題の達成状況をとらえ、練習や競技の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の能力に応じた技能で、速く走ったり、遠くへ（高く）跳んだり、遠くへ投げたりすることができる。 ・ 選択した種目について特徴的な動きを身に付け、競技したり記録を高めたりすることができる。 ・ 選択した種目に必要なスタートや加速、助走や踏切、構えや突き出しなどができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上競技の選択した種目の特性や技術の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ・ 選択した種目の課題解決のための練習方法や学習の進め方について、具体例を挙げている。 ・ 選択した種目のルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。 ・ 競技会の企画・運営の方法について、具体例を挙げている。

(4)「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだりすることができるようにする。
 ア クロール
 イ 平泳ぎ
 ウ 背泳ぎ
 エ バタフライ
 オ 横泳ぎ
- (2) 互いに協力して練習ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、水泳の事故防止に関する心得を守り、健康・安全に留意して練習や競泳ができるようにする。

(3) 自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競泳の仕方を工夫することができるようにする。

【「D 水泳」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
水泳の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよう互いに協力して進んで練習に取り組もうとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、水泳の事故防止に関する心得を守り、健康・安全に留意して練習や競泳をしようとする。	自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や競泳の仕方を工夫している。	水泳の特性に応じた技能を身に付けるとともに、その技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだり、競泳をしたりすることができる。	水泳の特性や学び方を理解するとともに、各泳法の技術の構造、競泳の行い方、水泳の事故防止について理解し、知識を身に付けている。

【「D 水泳」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 速く泳いだり、続けて長く泳いだり、競泳をしたりする水泳の楽しさや喜びを味わおうとする。 練習や競泳で、仲間と互いに協力して補助し合ったり、励まし合ったりしようとする。 競泳のルールを守り、勝敗の結果を受け入れようとする。 水泳の事故防止の心得を守り、練習や競泳をする上でのルールを守るなど、互いの健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 泳法ごとに、自分の能力に応じた目標記録や課題を定めている。 課題解決に必要な、練習や競泳の方法を選んだり、見付けたりしている。 課題の達成状況をとらえ、練習や競泳の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の能力に応じた泳法で、速く泳いだり、続けて長く泳いだりすることができる。 選択した泳法について特徴的な動きを身に付けて泳ぐことができる。 速く泳いだり、続けて長く泳いだりするために必要なターンや加速などができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の特性や技術の構造、競泳のルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。 学習の進め方、各泳法の動き方、合理的な練習の方法や練習計画の立て方について、具体例を挙げている。 競争の方法、作戦の立て方について、具体例を挙げている。 水泳の事故防止の心得や練習場のルール、事故がおきたときの対処について、言ったり、書き出したりしている。

(5) 「E 球技」

【学習指導要領の内容】

(1) チームの課題や自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。

- | | | |
|------------|----------|----------|
| ア バスケットボール | イ ハンドボール | ウ サッカー |
| エ ラグビー | オ バレーボール | カ テニス |
| キ 卓球 | ク バドミントン | ケ ソフトボール |

(2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。

(3) チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようにする。また、競技会の企画や運営ができるようにする。

【「E 球技」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
球技の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよ	チームや自分の能力に応じた課題を設定し、	チームの課題や自分の能力に応じて、選択し	選択した球技種目の特性に応じた技術の構造や技

<p>うチームにおける自分の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。</p>	<p>その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。</p>	<p>た球技種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。</p>	<p>能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、審判法及び競技会の企画や運営の仕方を理解し、知識を身に付けている。</p>
--	---------------------------------------	---	--

【「E 球技」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合う球技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・練習やゲームで、チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしようとする。 ・練習やゲームで、審判の判定や指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・練習やゲームの場所の安全を確かめ、安全な練習方法で行おうとし、危険なプレーをしないなど、健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定している。 ・チームや自分の課題を解決するための適切な練習の方法などを選んだり、見付たりしている。 ・技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立てている。 ・チームや自分の課題の達成状況をとらえ、練習やゲームの仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自分の能力に応じて、選択した種目の特性に応じた技能を身に付け、ゲームをすることができる。 ・身に付けた個人的技能や集団的スキルを高めたり、新たに身に付けた技能で攻防を展開したりしてゲームをすることができる。 ・技能の段階に応じて、相手との攻防に合った作戦で練習やゲームをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した球技種目の特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ・技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方について、具体例を挙げている。 ・選択した球技種目のルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。 ・競技会の企画や運営の仕方について、具体例を挙げている。

(6)「F 武道」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に応じて次の運動のスキルを高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。
 - ア 柔道
 - イ 剣道
- (2) 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができるようにする。
- (3) 自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や試合の仕方を工夫することができるようにする。

【「F 武道」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<p>武道の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよう伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、進んで練習や試合に取り組もうとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、禁じ</p>	<p>自分の能力に応じた技を習得するための課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や試合の仕方を工夫している。</p>	<p>選択した武道種目の特性に応じた技能を身に付けるとともに、そのスキルを高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。</p>	<p>選択した武道種目の特性や学び方、技術の系統性・構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、試合や審判の方法を理解し、知識を身に付けている。</p>

技を用いないなど、安全に留意して練習や試合をしようとする。			
-------------------------------	--	--	--

【「F 武道」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じた技を習得する喜びや、相手の動きや技に対応した攻防を展開して競い合う武道の楽しさを味わおうとする。 ・練習や試合で、仲間と協力して教え合おうとする。 ・練習や試合で、審判の判定や指示に従うとともに、勝敗や結果を受け入れたり、礼儀作法を重視したりしようとする。 ・用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、自他の安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った技を選び、得意技として身に付けるための課題を設定し、課題解決に適した練習方法や学習の場を選択している。 ・試合で、自分や相手の能力、学習段階を把握して、使える技や判定の仕方などを選んでいく。 ・相手の動きや体勢等に応じて、有効な技や技をかける機会などを見付けている。 ・課題の達成状況をとらえ、練習や試合の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習するときに、身に付けた基本動作と对人的技能で攻撃をしたり、相手の技をかわしたりすることができる。 ・自分の能力に応じて、身に付けた得意技で練習や試合をすることができる。 ・試合で、相手の動きや技に応じ、技をかける、防ぐ、返すなどを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の伝統的な考え方、武道の特性、技の系統性、基本動作や对人的技能の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ・自分や相手の課題に合った練習や試合の仕方、練習計画の立て方、試合の運営の仕方について具体例を挙げている。 ・選択した種目の礼儀作法、ルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。

(7)「G ダンス」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に応じた課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、交流し、発表することができるようにする。
 - ア 創作ダンス
 - イ フォークダンス
 - ウ 現代的なリズムのダンス
- (2) 互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、発表したりすることができるようにする。
- (3) グループの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。また、発表交流会の企画や運営ができるようにする。

【「G ダンス」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
ダンスの特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよう互いのよさを認め合い、協力して進んで練習や発表に取り組もうとする。	グループの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫している。	自分の感じたままを素直に表現したり、感じを込めて踊ったり、仲間とかかわりをもって踊ったりすることができる。	ダンスの特性や学び方、文化的背景や動きの特徴を理解するとともに、創作の手順や発表、鑑賞の仕方を理解し、知識を身に付けている。

【「G ダンス」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
・心身を解き放して、全身で思いっきり動く、感じ	・テーマ設定するとき、グループや自分	・イメージにふさわしい動きや体で感じた	・ダンスは、心身を解き放してリズムやイメー

<p>を込めて動く，リズムに乗って動く，仲間とかかわりをもって動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間とかかわりをもって踊り，互いの動きのよさ，感じ方や表現のよさなどを認め合って，誰とでも楽しもうとする。 ・練習や発表交流会で，気持ちを合わせて，グループで協力しようとする。 	<p>の能力に応じた課題を把握し，その解決を目指して，イメージを出し合ったり，表現したい内容を選んだりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊ったり，創作したりするときに，テーマなどにふさわしい動きを見付けだしたり，さまざまに変化させて構成したりしている。 ・見せ合いや発表の場で，互いのよいところや成果をとらえ，踊り方や表現の仕方を見直したり，新しい動きを選んだりしている。 	<p>リズムなどを素直に表現し，全身で踊ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返して強調したり，動きにめりはりを付けたりして，感じを込めて踊ることができる。 ・リズムの取り方，動き方など，相手や仲間と調子を合わせて，かかわりをもって踊ることができる。 	<p>ジの世界に没入して踊ることが楽しい運動で，仲間とかかわりをもって踊ったり，発表し合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動であるという特性について，言ったり，書き出したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンスの文化的背景や動きの特徴について，言ったり，書き出したりしている。 ・いろいろなダンスの学習の進め方，発表の仕方，相手のよさを見分けたり感じ取ったりする発表交流会の行い方，共感，感動するなどの鑑賞の仕方について，具体例を挙げている。
--	---	---	--

(8)「H 体育理論」

【学習指導要領の内容】

(1) 社会の変化とスポーツ

変化する現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解できるようにするとともに，運動にはそれぞれ歴史・文化的に形成された意義，独自の技術・戦略及び規則があることを理解できるようにする。また，個及び集団の状況に応じたスポーツとのかかわり方や豊かなスポーツライフの設計と実践について理解できるようにする。

(2) 運動技能の構造と運動の学び方

運動技能を構造的に理解できるようにするとともに，その上達過程と上達の程度を把握する方法を理解できるようにする。また，自己の能力に応じて運動技能を高めるなど運動に親しむための学び方について理解できるようにする。

(3) 体ほぐしの意義と体力の高め方

自己の体に気付き，体の調子を整えたり，仲間と交流したりする体ほぐしの意義と行い方について理解できるようにする。また，自己の体力や生活に応じて体力を高めるための課題を把握し，トレーニングの方法などその高め方について実践的に理解できるようにする。

【「H 体育理論」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<p>社会の変化とスポーツ，運動技能の構造と運動の学び方，体ほぐしの意義と体力の高め方について関心をもち，生涯にわたって運動に親しみ運動の実践に生かそうと進んで学習に取り組もうとする。</p>	<p>社会の変化とスポーツ，運動技能の構造と運動の学び方，体ほぐしの意義と体力の高め方について，スポーツの意義や学び方を考え，自己の体力向上に効果的な運動の構成を作成でき，生涯にわたって実践しようと考え，工夫している。</p>		<p>社会の変化とスポーツ，運動技能の構造と運動の学び方，体ほぐしの意義と体力の高め方について理解するとともに，スポーツの必要性や体づくり運動の実践の効果，運動の学び方を理解し，知識を身に付けている。</p>

【「H 体育理論」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化に伴うスポーツの必要性や意義，運動の歴史的経緯や文化的特徴に関心をもち，生涯にわたってスポーツにかかわっていかうと進んで学習に取り組もうとする。 ・ 運動技能の構造と運動の学び方について関心をもち，技能の上達を目指したり，運動の楽しさや喜びを味わおうと進んで学習に取り組もうとする。 ・ 体ほぐしの意義と体力の高め方に関心をもち，運動を行って自分や仲間の心身の状況に気付いたり，自分の体力向上を図ろうと進んで学習に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化に伴うスポーツの必要性や意義，歴史的に見たスポーツの文化的特徴，生涯スポーツへのかかわり方について，自分の考えを整理している。 ・ 運動を実践するための運動技能の構造を整理したり，自分に適した運動及び学び方の方法を見付けたりしている。 ・ 体ほぐしの意義をふまえて運動を選んだり，体力の向上を図るための運動の理論や方法を見付けたりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの意義や必要性，生涯にわたってスポーツとどのようにかかわっていけばよいかについて，具体例を挙げている。 ・ 選択した運動種目の技術や戦術，規則などが歴史的・文化的に変化していることについて，言ったり，書き出したりしている。 ・ 運動技能の構造と学び方，運動実践のための目標設定や課題の把握，練習計画の立案，成果の確認方法等について，具体例を挙げている。 ・ 体ほぐしの運動の意義について，言ったり，書き出したりしている。 ・ 体ほぐしの運動の行い方について，具体例を挙げている。 ・ 体力の向上を図る運動の構成や運動プログラムを作成・修正する方法について，具体例を挙げている。

保健

1 目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 保健の評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準

科目「保健」においては、学習指導要領の「保健」の内容の(1)「現代社会と健康」、(2)「生涯を通じる健康」、(3)「社会生活と健康」をまとめりとして、評価規準を作成した。

また、これらをもとに、各内容のまとめりのア、イ、ウ、・・・の項目を単元として、より具体的な評価規準(単元の評価規準)を設定することとした。

(1)「現代社会と健康」

【学習指導要領の内容】

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。

ア 健康の考え方

健康の考え方やその保持増進の方法は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が重要となっていること。また、我が国や世界では、様々な保健活動や対策などが行われていること。

イ 健康の保持増進と疾病の予防

健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践及び喫煙、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択が必要であること。薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。また、医薬品は正しく使用すること。感染症の予防には、適切な対策が必要であること。

ウ 精神の健康

人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があること。また、精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。

エ 交通安全

交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であること。また、交通事故には責任や補償問題が生じること。

オ 応急手当

傷害や疾病に際しては、心肺蘇生法などの応急手当を行うことが重要であること。また、応急手当には正しい手順や方法があること。

【(1)「現代社会と健康」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
健康の保持増進に必要な事柄について、仲間と協力し、資料を集めたり、意見を交換したり、	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や経験をもとにしたり、資料や	健康の保持増進に必要な事柄について、健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択するこ

<p>課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。</p>	<p>仲間の意見などを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断している。</p>	<p>と及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。</p>
-------------------------------------	--	---

【(1)「現代社会と健康」の評価規準の具体例】

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>思考・判断</p>	<p>知識・理解</p>
<p>健康の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方や保持増進の方法の変化、適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 健康の考え方や保持増進の方法の変化、適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて、仲間と意見を交換したり、発表したりしようとしている。 	<p>健康の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方や保持増進の方法の変化、適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 健康の考え方や保持増進の方法の変化、適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 	<p>健康の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方や保持増進の方法の変化、適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて、具体例を挙げている。 健康の考え方や保持増進の方法の変化、適切な意志決定や行動選択の重要性及び我が国や世界の保健活動や対策の実践などについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。
<p>健康の保持増進と疾病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、仲間と意見交換したり、発表したりしようとしている。 	<p>健康の保持増進と疾病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 	<p>健康の保持増進と疾病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、具体例を挙げている。 調和のとれた生活の実践、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する適切な意志決定や行動選択と心身への影響、感染症の予防などについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。
<p>精神の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と 	<p>精神の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があるこ 	<p>精神の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げている。 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実

<p>身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、仲間と意見交換をしたり、発表したりしようとしている。</p> <p>交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、仲間と意見交換したり、発表したりしようとしている。 <p>応急手当</p> <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法等の応急手当の意義や正しい手順・方法について、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 心肺蘇生法等の応急手当の意義や正しい手順・方法について、仲間と協力して、実習に取り組もうとしている。 	<p>と、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。</p> <p>交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、自分の経験や仲間との意見交換などをもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 <p>応急手当</p> <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法等の応急手当の意義や正しい手順・方法について、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 心肺蘇生法等の応急手当の意義や手順・方法について、日常生活に当てはめて考えたり、実習を通して確かめたりして、正しく整理している。 	<p>現への努力が必要であることについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、具体例を挙げている。 交通事故の防止には、車両の特性の理解、安全運転や歩行などの適切な行動、自他の生命尊重の態度、交通環境の整備が必要であること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。 <p>応急手当</p> <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法等の応急手当の意義や正しい手順・方法について、具体例を挙げている。 心肺蘇生法等の応急手当の意義や正しい手順・方法について、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。
--	--	---

(2) 「生涯を通じる健康」

【学習指導要領の内容】

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性が理解できるようにする。

ア 生涯の各段階における健康

生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理を行う必要があること。

イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

生涯を通じて健康を保持増進するためには、我が国の保健・医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。

【(2)「生涯を通じる健康」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
生涯の各段階における健康の課題に応じた自己の健康管理の必要性及び保健医療機関の活用について関心をもち、仲間と協力し、資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。	生涯の各段階における健康の課題や自己管理の重要性、保健・医療機関の活用について、自分の学習や経験をもとにしたり、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断している。	生涯の各段階における健康の課題や自己管理の重要性、保健・医療機関の活用について、各段階における健康課題や保健・医療機関の活用などについて理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。

【(2)「生涯を通じる健康」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<p>生涯の各段階における健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期、結婚生活における健康問題や適切な意志決定と行動選択、加齢による心身の変化など、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 ・思春期、結婚生活における健康問題や適切な意志決定と行動選択、加齢による心身の変化など生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について、仲間と意見を交換したり、発表したりしようとしている。 <p>保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 ・我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について、仲間と意見を交換したり、発表したりしようとしている。 	<p>生涯の各段階における健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期、結婚生活における健康問題や適切な意志決定と行動選択、加齢による心身の変化など、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について、資料などをもとに、課題を見付けている。 ・思春期、結婚生活における健康問題や適切な意志決定と行動選択、加齢による心身の変化など、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 <p>保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 ・我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 	<p>生涯の各段階における健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期、結婚生活における健康問題や適切な意志決定と行動選択、加齢による心身の変化など、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について、具体例を挙げている。 ・思春期、結婚生活における健康問題や適切な意志決定と行動選択、加齢による心身の変化など、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。 <p>保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について、具体例を挙げている。 ・我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。

(3)「社会生活と健康」

【学習指導要領の内容】

社会生活における健康の保持増進には、環境などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解できるようにする。

ア 環境と健康

人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。このため、様々な対策がとられていること。

イ 環境と食品の保健

学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、環境衛生活動が行われていること。また、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていること。

ウ 労働と健康

職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であること。

【(3)「社会生活と健康」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
環境と健康 環境と食品の保健，労働と健康について関心を持ち，仲間と協力し，資料を集めたり，意見を交換したり，課題について調べたりして，意欲的に学習しようとしている。	環境と健康，環境と食品の保健，労働と健康について，自分の学習や経験をもとにしたり，資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして，課題の設定や解決の方法を考え，選択すべき行動を判断している。	環境と健康，環境と食品の保健，労働と健康について，学校や地域，労働の環境を健康に適したものにすること，食品の安全性を確保する必要があることを理解し，課題解決に役立つ知識を身に付けている。

【(3)「社会生活と健康」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<p>環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、そのための対策がとられていることについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、そのための対策がとられていることについて、仲間と意見交換したり、発表したりしようとしている。 <p>環境と食品の保健</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。 学校や地域の環境を健康に適 	<p>環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、そのための対策がとられていることについて、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、そのための対策がとられていることについて、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 <p>環境と食品の保健</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、整理し、分析して課題を見付けている。 学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行わ 	<p>環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、そのための対策がとられていることについて、具体例を挙げている。 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、そのための対策がとられていることについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。 <p>環境と食品の保健</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、具体例を挙げている。 学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保す

したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、仲間と意見を交換したり、発表したりしようとしている

労働と健康

- ・職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて、仲間と協力し、資料を集めたり、調べたことを記録したりしようとしている。
- ・職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて、仲間と意見を交換したり、発表したりしようとしている

れていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、自分の経験や仲間との意見交換、資料などをもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。

労働と健康

- ・職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて、資料などをもとに、整理し、分析して課題を見付けている。
- ・職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて、自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。

るための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。

労働と健康

- ・職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて、具体例を挙げている。
- ・職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて、学習した内容を、言ったり、書き出したりしている。

第4 単元の評価に関する事例

ここでは、指導と評価の工夫を行った事例として、「体育」、「保健」の2科目について、各1事例を紹介する。

体育

単元名 「球技(バレーボール)」(18時間)

第2学年 月～月

1 単元の目標

- (1)バレーボールの集団的技能に着目して、作戦を立てて競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。また、チームにおける自分の役割を自覚して、その責任を果たそうとする。ゲームでは、ルールを守り勝敗や結果を受け入れようとし、健康・安全に留意しようとする。
- (2)チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その解決のための適切な練習の方法を選んだり、見付けたりできるようにする。バレーボールの集団的技能を生かして相手との攻防に合った作戦を立てたり、そのための練習の方法や新たな課題を見付けたりできるようにする。
- (3)チームや自分の能力に応じてゲームができるようにする。また、三段攻撃や守備のフォーメーションなどの集団的技能を高め、新たに身に付けた技能で攻防を展開できるようにする。
- (4)バレーボールの集団的技術の構造やそれらをもつための合理的な練習の仕方、ゲームに必要なルールについて、書き出したり、具体例を挙げたりすることができるようにする。

2 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
内容とのま評と価ま規り準	球技の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるようチームにおける自分の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。	チームの課題や自分の能力に応じて、選択した球技種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	選択した球技種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、審判法及び競技会の企画や運営の仕方を理解し、知識を身に付けている。
単元の評価規準	バレーボールの集団的技能に着目して、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わえるようチームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり励まし合ったりしようとするとともに、審判の判定や指示に従い、勝敗や結果を受け入れようと	チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その課題を解決するための適切な練習の方法を選んだり、見付けたりするとともに、集団的技能について、相手との攻防に合った作戦を立てたり、練習やゲームの方法や新しい課	チームや自分の能力に応じて、バレーボールの特性に応じた技能を身に付け、ゲームをすることができる。また、三段攻撃や守備のフォーメーションなどの集団的技能を高め、新たに身に付けた技能で攻防を展開することができる。	バレーボールの特性に応じた集団的技術の構造、技能を高めるための合理的な練習の仕方、バレーボールに必要なルール及び競技会の企画や運営の仕方について、書き出したり、具体例を挙げたりしている。

	<p>する。また、練習やゲームの場所の安全を確かめ、危険なプレーをしないなど、健康・安全に留意しようとする。</p>	<p>題を見付けたりする。</p>		
<p>学具 習体 活の 動評 に価 お規 け準 る</p>	<p>練習やゲームの場所の安全を確かめ、危険なプレーをしないなど、健康・安全に注意しようとする。 バレーボールの集団的技術に着目して、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさを味わおうとする。 練習やゲームで、自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励まし合ったりしようとする。 審判の判定や指示に従い、勝敗の結果を受け入れようとする。</p>	<p>練習やゲームから、チームや自分の課題を見付けている。 練習やゲームから、課題を解決するための方法を選んでいる。 チームや自分の課題をとらえ、練習の見直しやゲームで新たな作戦を見付けている。 技能の段階に応じて、組織的な攻守に必要な練習法や作戦を提示されたものの中から選んでいる。</p>	<p>パスとレシーブで、ボールをコントロールすることができる。 サーブでコースをねらい、相手コートに入れることができる。 スパイクやブロックの動作ができる。 直上トス、オーブントスを使った攻撃フォーメーションの動きができる。 練習やゲームで、相手のサーブやスパイクに合わせた守備フォーメーションの動きができる。</p>	<p>バレーボールはネットを挟み攻防を楽しむ特性があることについて、言ったり、書き出したりしている。 バレーボールの技能を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 バレーボールに必要な集団的な技術について、言ったり、書き出したりしている。 ラリーポイント制、タッチネット、ローテーションなどの基本的なルールについて、言ったり、書き出したりしている。 ゲームの運営の仕方について、具体例を挙げている。</p>

3 指導と評価の計画

時間		ねらい・学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技術	知識・理解
学習 I 1 1 時間	① オリエンテーション ・学習の目標を知る。 ・単発の目標に必要なバレーボールの習熟を知る。 ・チーム分けとチーム名の作成をする。毎時の学習ノートへの記入方法を教える。	① 学習やゲームの場面の安全を確保し、危険な行為をしないように、健康・安全に注意しようとする。 ② 練習やゲームの場面の安全を確保し、怪我の発生に気を配るなど、健康・安全に注意しようとする。	① 練習やゲームの場面の安全を確保し、危険な行為をしないように、健康・安全に注意しようとする。 ② 練習やゲームの場面の安全を確保し、怪我の発生に気を配るなど、健康・安全に注意しようとする。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ② バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ③ バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。	
学習 II 2 時間	① ねらい① ・個人技の技術を高めよう。 ② バレーボールの技術を高めよう。 ③ チームゲーム ・全員が参加してサーブを入れる。 ④ チームの技術と集団的技術の練習ゲームを練習しよう。	① バレーボールの集団的技術に習熟し、個人技の技術を高めよう。 ② バレーボールの技術を高めよう。 ③ チームゲーム ・全員が参加してサーブを入れる。 ④ チームの技術と集団的技術の練習ゲームを練習しよう。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ② バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ③ バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。	
学習 III 4 時間	① ねらい② ・お互いの勝利を行いながら、トーナメント方式で発展する。 ② 練習やゲームの振り返りを行う。 ③ チームの振り返りを行う。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ② バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ③ バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。	
まとめ 3 時間	① ねらい③ ・内的方法を参考に、例えは次のような課題の様子や記述の内容から「おぼろげな満足」を判断される。状況がどうかを評価する。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ② 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。 ③ 練習やゲームから、チームや自分の課題を反復している。	① バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ② バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。 ③ バレーボールの技術を高める合理的な練習法について、具体例を挙げている。	

注)「学習活動における具体的評価基準」の欄にある「②」の「ゴチャッタク」で示した部分は、「十分満足できると判断される」状況 (A) と評価する具体例である。

4 観点別評価の進め方

- (1) この事例においては、学習活動における具体の評価規準を、「関心・意欲・態度」については4個、思考・判断は4個、「運動の技能」は5個、「知識・理解」は5個、それぞれ設定している。なお、評価をするに当たって、基本的に毎時間の適切な場面で行うものの、毎時間に四つの観点について行うことは無理があるので、この事例においては数時間ごとに区分を行い、その区分の中で学習の実現状況进行评估することとした。
- (2) 評価は、「十分満足できると判断される」状況(A)(以下、「十分満足できる」状況、と略す。),「おおむね満足できると判断される」状況(B)(以下、「おおむね満足できる」状況、と略す。),「努力を要すると判断される」状況(C)(以下、「努力を要する」状況、と略す。)を原則とした。そして、評価の手順としては、単元の展開中の具体の評価規準に照らし、まず始めに「おおむね満足できる」状況进行评估し、次に「十分満足できる」状況、「努力を要する」状況のいずれに当たるのか进行评估し、記録した。なお、「十分満足できる」状況の中でも特に優れている場合には「A」、 「努力を要する」状況の中でも「一層努力を要すると判断される」状況の場合には「C」と評価し、記録した。
- (3) 「十分満足できる」状況と評価する際の手かかりについては、「3 指導と評価の計画」の表中に「『 』のゴチック」で例示している。
- (4) 単元の途中に、「努力を要する」状況にある生徒への指導の手立てについては、次のことに留意する。
 - ア 「努力を要する」状況にある生徒に対しては、どの観点を指導するのかを明確に意識することや、「努力を要する」状況と評価する観点における学びの姿を明確にすることなどが求められる。手立てを講じる際には、一つの観点のみに注目するのではなく、他の観点との関連を図って行うことが大切である。また、指導の結果を教師自身が自己評価(又は生徒の自己評価を参考に)して次の指導に生かすことが大切である。
 - イ 「関心・意欲・態度」では、例えば、「チームの話し合いや仲間との教え合いに加わろうとせずに、一緒に活動することができない」ことが考えられる。このような場合には、本人とチームの他のメンバーに対する働きかけが必要になる。本人に働きかけるには、一緒に活動に加わるつもりがないのか、仲間と一緒に活動することに苦手意識をもっているのか、一緒に活動したいと思っても受け入れてもらえないのかといったことを踏まえる。他のメンバーに働きかけるには、チームのリーダーとともに他のメンバーが、話し合いに参加しないことに対してどのように受け止めているのか、どのようにしたら受け入れて話し合いや教え合いすることができるようになるのかといったことを踏まえる。そして、チームという集団に所属し受け入れてもらうことにより、一緒に活動することの楽しさをお互いが得られるように、本人とグループに働きかける必要がある。また、集団全体への働きかけとともにチームの緊張感が和むよう配慮したり、グループになじめるよう教師からの「声かけ」を行うなど一人一人の生徒の実態に応じた指導が大切となる。指導の手立ては、どのようにしたら一緒に活動をする意欲がもてるのか、自分でできることは何か、一緒に活動するために必要なことは何かといったことに働きかける。例えば、集団に所属し一緒に活動することは自分と周囲の社会性にかかわる部分を高めること、自分の気持ちを適切に表現し伝えることが大切なこと、気持ちを伝えることは一方的なものではなく双方向があることなどに働きかける。また、本人と周囲のコミュニケーションの力を高めるための支援をしておくことも大切なことである。ゲームの初期の段階では、リラックスした中で自己の能力を発揮できるように条件を整えることや、学習グループ全体が「バレーボールの特性」を学習するために必要な話し合いや教え合いをする際に、お互いを尊重し認め合うことに働きかけることなどが考えられる。
 - ウ 「思考・判断」では、例えば、「練習の見直しの視点が見つめられない」、「選ぶ練習や作戦を誤っている」状態にいたることが考えられる。「練習の見直しの視点」をつかめるようにするには、練習やゲームの結果の観察を具体的にとらえ、設定した目標に対してどうであったのか、チームや自分の力はどうかであったのかといった視点を明確にすることなどが考えられる。「選ぶ練習や作戦を誤っている」状態の場合には、チームや自分の力と選択した練習や作戦が適切なものであるのか、チー

ムや自分の目標と選択した練習や作戦が適切なものであるのかを確認することなどが考えられる。

指導の手立ては、思考・判断で学ぶ学習の課題が、その生徒にとって、見えたり、選択したりすることができるようにすることなどが考えられる。例えば、学習ノートや課題発見カードなどを用いて「ラリーが続かなかったのはなぜだと思いますか?」、「何を目標にしたのですか?その結果は?」といった問いかけをする。「今、チームとしてはどんな練習が適していると思いますか?」、「選んだ練習が高すぎると思われます。チームの状況に合った練習を選びましょう。」などの働きかけをすることなどが考えられる。

エ 「運動の技能」では、例えば、直上トス、オープントスを使った攻撃フォーメーションの動きをする際に、「動き始めが遅い」のか、「本人は動いているつもりでも動けていない」のかといったことが考えられる。このような場面の技能を身に付けていくに当たっては、その生徒にとって「やってみよう」、「できそうだ」と思う運動を選択し例示することが大切になる。練習を積み重ねるにしても、動きの始めのタイミングを修正することが必要なのか、それとも動いていくコースや体の向きなどを修正することが必要なのかといったことを踏まえたアドバイスは重要であり、その後の技能の獲得にも大きな意味をもつ。

指導の手立ては、その生徒がうまくできるタイミングや動き方を示す、あるいは、本人やチームからの提案を受け入れてできそうな練習から始めることなどが考えられる。

例えば、「動き始めが遅い」状況に対しては、動き始めのタイミングをつかむために、実際に指導者がそばでタイミングのときに声をかける、実際にやってみた結果のフィードバックをその場で返すことなどにより修正することなどが大切になる。それには、空中にあるボールの位置、トスの方向、スパイクを打つ人は誰でどこにいるのか、といったことに働きかけて動き始めのタイミングをつかませることなどが大切である。また、「動いているつもりでも動けていない(動いていない)」状況に対しては、練習やゲームのときに動きを止めて確認し修正することなども大切になる。それには、「構えているときの基本姿勢を守る」、「体をボールのある方向に向ける」、「サイドラインを踏んでから中に踏み込む」といった具体的な働きかけにより、動きの方向や幅の広がりや身に付けることで三段攻撃をできるようにすることなどが考えられる。

オ 「知識・理解」では、学習したバレーボールの基本的なルールが分からない場合が考えられる。このような場合は、身に付いている知識とそうでないものとを明らかにすることが考えられる。

指導の手立ては、身に付いていないルールを言えるようにする。ルールを言えたら、それを使って会話ができるようにすることなどが考えられる。そして、学習ノート等に記入することができるようにしていくことが大切である。また、単に語句や説明の再現を求めだけでなく、その生徒にとって可能な範囲で記録をまとめさせたりする、基本的なルールと実際の動きを書き出させることなどが考えられる。

5 観点別評価の総括

(1) 観点別評価の総括に当たり、具体的評価規準に照らした評価結果を、それぞれ「A 5」、「A 4」、「B 3」、「C 2」、「C 1」と置き換えた。そして、単元の終了時に各観点ごとの合計を求め、平均したもので判断することとした。その際、「A」と「B」が同数ならば数値に置き換えた平均が「3.5」となるので、平均がこれ以上の結果となった場合の観点別評価の総括を「A」、同様に「B」と「C」が同数ならば数値に置き換えた平均が「2.5」となるので、「2.5以上～3.5未満」の場合の観点別評価を「B」、「2.5未満」となった場合の観点別評価を「C」とする考え方に立った。

(2) 各観点の平均値を観点別評価の総括とする際には次のようにする。

評価情報の記録	数値への置き換え	平均	観点別評価の総括
A	5	3.5以上	A
A	4		

B	3	2.5以上～3.5未満	B
C	2	2.5未満	C
C	1		

(3) Z君の場合 (ここでは、「関心・意欲・態度」と「運動の技能」を例示する。)

「関心・意欲・態度」	
練習やゲームの場所の安全を確かめ、危険なプレーをしないなど、健康・安全に注意しようとする。……………	A (5)
バレーボールの集団的スキルに着目して、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさを味わおうとする。……………	B (3)
練習やゲームで、自分の役割を果たし協力して教え合ったり、励まし合ったりしようとする。……………	A (4)
審判の判定や指示に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。……………	A (4)
「運動の技能」	
パスとレシーブで、ボールをコントロールすることができる。……………	A (4)
サーブでコースをねらい、相手コートに入れることができる。……………	A (4)
スパイクやブロックの動作ができる。……………	C (2)
練習やゲームで、直上トス、オープントスを使った攻撃フォーメーションの動きができる。……………	C (2)
練習やゲームで、相手のサーブやスパイクに合わせた守備フォーメーションの動きができる。……………	B (3)

平均値の算出と単元の総括

「関心・意欲・態度」

$$(5 + 3 + 4 + 4) \div 4 = 4.0 \quad (2) \text{より「A」となる。}$$

「運動の技能」

$$(4 + 4 + 2 + 2 + 3) \div 5 = 3.0 \quad (2) \text{より「B」となる。}$$

(4) この例に示す、記録の付け方及び数値への置き換えの仕方、数値から観点別評価に総括する例は、便宜的に定めているものであり、この事例と同じ手順で行うにしても、どのような区切りとするかは、各学校において検討して定めることが肝要である。

(5) この例においては、単元の評価規準を四つの観点で18個の規準を設定しているが、単元のどの場面でいくつ設定するかといったことについては、運動の特性や生徒の実態に応じて工夫することが大切である。

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

保健

単元名 「現代社会と健康（ウ精神の健康）」（6時間）

第1学年 月

本事例の指導と評価の特徴とねらい - 本事例を読むに当たって -

【目指す生徒の変容】

本事例では精神の健康の保持増進について、単に知識・理解を得るだけにとどまらず、実生活の中での問題点に着目する感性を養い、その問題点を解決することに対し価値をもち、意欲的に考え、適切な行動を選択できるようにすることを目指している。

【指導について】

学習により、上記のような生徒の変容が現れることを目指し、単元を通して自分の生活を振り返ったり、心の内面を見つめたりするとともに、仲間の意見を聞き、自分の考えに取り入れることのできるような場面を多く設定した。ここでの学習による生徒の変容は、実際の生活場面で直面する精神の健康に関する問題に対応できる実践力の育成につながるものと考えた。

【評価について】

また、評価については、これまで単元テストによる知識・理解に関する評価に偏る傾向にあった状況から、ワークシートを毎授業で活用し、学習過程での上記のような変容をできるだけ個別に詳しく見取することを意図したものである。さらには、観察による評価の着眼点を明確にすることで、これまでの主観的イメージをより客観的なものに変えることを試みた。

1 単元の目標

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。

- (1) 精神の健康の保持増進に関して積極的に仲間と意見交換したり、集めた資料を活用したりしながら課題を見付け、解決の方法を導き出すことに意欲的に取り組めるようにする。
- (2) 学習したことを自分の日常生活に当てはめ、適切な行動を選択することができるようにする。
- (3) 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスに対する適切な対処の仕方や自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げたり、説明したりすることができるようにする。

2 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
内容とのま評と価ま規り準	健康の保持増進に必要な事柄について、仲間と協力し、資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や経験をもとにしたり、資料や仲間の意見などを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断している。	健康の保持増進に必要な事柄について、健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。
単元の評	人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進す	人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進す	人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへ

評価規準	るにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や仲間との意見交換、資料などをもとに、課題について調べ、記録したり、発表したりしようとしている。	るにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、資料や仲間の意見をもとに、課題を見付けたり、解決方法をまとめたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。	の適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。
学具習体活の動評に価お規け準る	人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、課題や指示に注目して、調べようとしている。 適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、教科書や与えられた資料をもとに、調べた内容を記録しようとしている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や調べたことをもとに、自分の意見を発表しようとしている。	適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、精神の健康の保持増進について、自分の経験や資料から、問題点や課題を見付けている。 人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、資料や仲間の意見などをもとに、課題の解決方法をまとめている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の生活に当てはめたり、事例をもとにしたたりして、適切な行動を選んでいる。	適応機制には様々な種類があることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。 精神と身体には密接な関連があることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。 精神の健康を保持増進するには自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。

3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
1	<p>「欲求と適応機制」</p> <p>【ねらい】</p> <p>行動の根源が欲求にあることに気付き、精神機能が主として脳によって統一的・調和的に営まれていることや人間には様々な欲求があることを理解できるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の行動と欲求について話し合う。 2. 人間の欲求と脳の働きについて調べる。 3. 現在の自分が「～したい」という事柄を挙げ、発表し合う。 4. 自分と仲間の欲求を整理し、分類する。 5. 発表し合い、学習のまとめをする。 	<p>関心・意欲・態度-</p> <p>思考・判断-</p>	<p>観察</p> <p>ワークシート</p>

2	<p>【ねらい】 欲求不満から生じる不安や悩みがあるときに現れる適応機制には、様々な種類があることを理解し、日常生活では様々な適応機制を用いていることに気付かせる。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欲求不満から生じる不安や悩みがあるときに現れる適応機制について話し合う。 2. 教科書や資料をもとに、適応機制の種類とその内容について調べる。 3. 自分の行動傾向について、分類された適応機制に当てはめて分析し、自分の行動の問題点を考える。 4. グループ内で発表し合い、学習のまとめをする。 	<p>関心・意欲・態度 - 知識・理解 -</p> <p>思考・判断 -</p>	<p>観察 ワークシート 単元テスト：設問 ， でも評価 ワークシート</p>
3	<p>「心身相関とストレス」</p> <p>【ねらい】 具体的な事例から、人間の精神(心)と身体(体)は密接な関連をもち、身体的ストレスが精神の健康に影響し、精神的ストレスが身体の影響することを理解できるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活の中で心と体のかかわりについて話し合い、本時の学習の課題を見付ける。 2. 極端な寒暖や腹痛などの例をヒントに、身体的ストレスの心への影響について調べる。 3. 「断腸の思い」の資料をヒントに、精神的ストレスの体への影響について調べる。 4. 発表し合い、学習のまとめをする。 	<p>思考・判断 -</p> <p>関心・意欲・態度 -</p> <p>知識・理解 -</p>	<p>ワークシート</p> <p>観察，ワークシート</p> <p>ワークシート 単元テスト：設問 の1)～3)でも評価</p>
4	<p>「ストレスへの対処」</p> <p>【ねらい】 精神の健康を保持増進するためには、ストレスに適切に対処する必要があり、対処には、原因を除くこと、周囲の状況を判断する力やコミュニケーション能力を身に付けること、信頼できる相談相手をもつこと、趣味をもつこと、体を動かすことなど様々な方法があることを理解できるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスが高じた時の心や体への影響について、自分の経験などをもとに、発表する。 2. ストレスの心身の影響について、資料などをもとに調べ、ワークシートに整理する。 3. ストレスへの様々な対処の方法について、仲間との意見交換や資料をもとに、分析し、整理して、ワークシートにまとめる。 4. 発表し、まとめる。 	<p>関心・意欲・態度 -</p> <p>思考・判断 -</p>	<p>観察</p> <p>観察，ワークシート</p>

5	<p>【ねらい】 自分や仲間ですトレスに対する対処法を考へ、自分なりの方法を探し出せるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 現在の自分が、不安や不満、辛いことなどストレスに感じていることを挙げる。 ストレスチェックをして、自分のストレスの原因について考へ、自分なりの対処法を挙げる。 グループ内で自分の経験などをもとに、お互いの対処法を発表し合う。 お互いの対処法を発表し、体ほぐしなどいくつかの方法を試すなどして、自分で実際に使う対処法を選ぶ。 精神の健康を保持増進するためには、ストレスへの適切な対処が必要で、自分なりの対処法を見付けることが重要であることをまとめる。 	<p>関心・意欲・態度-</p> <p>思考・判断-</p> <p>知識・理解-</p>	<p>観察</p> <p>ワークシート 単元テスト：設問の7～8でも評価</p> <p>ワークシート 単元テスト：設問の1)～6)でも評価</p>
6	<p>「自己実現」</p> <p>【ねらい】 自分自身を高め、持てる力を最大限に発揮したいという自己実現の欲求の充足が、精神の健康と深くかかわっていることを理解できるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己実現とは、どんなことが、また、健康とどのようにかかわっているか調べたことをもとに、発表する。 他人の生き方に関する事例を読んで、自分の現在や将来の実現したい目標を挙げ、自分の行動を選ぶ。 自分の目標を自己実現するための課題と実現のために必要な努力などについて考へ、発表し合う。 精神の健康を保持増進するため、自己実現が必要なことをまとめる。 	<p>関心・意欲・態度-</p> <p>思考・判断-</p> <p>知識・理解-</p>	<p>観察、ワークシート</p> <p>ワークシート 単元テスト：設問の1)でも評価</p> <p>ワークシート 単元テスト：設問の2)でも評価</p>

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 基本的な考え方

ア 本単元は、疾病構造や社会の変化に対応して健康の保持増進を図るためには、「精神の健康」が重要になっていることを受けて、「精神の健康」の保持増進に関心をもち、自分の生活に当てはめて問題点や課題を見付けるとともに、適切な行動選択ができるような学習を進め、その過程と成果を評価する。

そのために、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の三つの観点ごとに学習活動における具体的評価規準「おおむね満足できると判断される」状況（B）（以下、「おおむね満足できる」状況、と略す。）を評価し、実際の授業において学習内容やその進め方及び学習形態等に応じて指導と評価の計画に位置付け、単元全体に分散してバランスよく配当し、評価する。

イ 学習活動における具体的評価規準「おおむね満足できる」状況をもとに、深まりや高まりが見られる姿を予測しておき、「十分満足できると判断される」状況（A）（以下、「十分満足できる」状況、と略す。）と評価する。

ウ 「おおむね満足できる」状況を実現していない場合に、「努力を要すると判断される」状況（C）（以下、「努力を要する」状況、と略す。）と評価する。

エ 単元終了後に、「思考・判断」及び「知識・理解」について、学習活動における具体的評価規準

に即した問題を作成し、単元テストを実施する。その結果を学習過程における評価と合わせて単元の評価の総括とする。

オ 「関心・意欲・態度」については、授業中の活動状況の観察やワークシートの記述内容から評価し、「思考・判断」については、ワークシートの記述内容と単元テスト等を利用して評価する。

また、「知識・理解」については、単元テストとワークシートの記述内容から評価する。

(2) 「十分満足できる」状況と評価される具体例

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<p>人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、課題や指示に注目し、気付いたことや考えたことをメモしながら、調べようとしている。適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、与えられた資料だけでなく、集めた資料をもとに、記録しようとしている。精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の考えに納得できる仲間の考えを取り入れ、発表しようとしている。</p>	<p>適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、精神の健康の保持増進について、仲間の意見や資料などをもとに、整理・分析し、問題点や課題を見付けている。人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、整理・分析したことをもとに、課題の解決方法をまとめている。精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、学習したことを構造的に整理し、自分の生活に当てはめたり、事例をもとにししたりして、適切な行動を選んでいく。</p>	<p>適応機制には様々な種類があることについて、具体的に説明したり、内容の要点を具体例を挙げて説明したりしている。精神と身体には密接な関連があることについて、具体例を挙げて説明している。精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、具体例を挙げて説明している。精神の健康を保持増進するには自己実現へ努力が必要であることについて、具体例を挙げて説明している。</p>

(3) 「努力を要する」状況と評価される生徒への指導の手だて

生徒一人一人に目を向け指導と評価をきめ細かく行うためには、学習を組み立てる段階において努力を要する状況を予測しておくことにより、個に応じた指導が進めやすくなると考えられる。

授業の展開の中で努力を要すると評価した生徒には、個人やグループの状況を把握した上で原因を考え、より具体的な指示や助言を行うとともに、その生徒やグループにあった適切な教材を提示するように努める。

【関心・意欲・態度】について

例えば、与えられた指示に従わず、ただ参加しているだけにとどまっているような生徒には、生徒自身の生活場面で起こりそうな話題を取り上げるなどして関心をもたせ、一緒に考えたり、できたことを誉めたり励ましたりして意欲が喚起されるような働きかけを行い、進んで学習に取り組むようにする。

また、自らの意見をもちながら発表することを躊躇して仲間の意見を聞くだけにとどまっているような生徒には、自分の意見を言うことに対する抵抗感を無くさせるように励ましながら、意思表示の重要性を理解させるように助言する。同時に集団全体に仲間の意見を尊重し取り入れることの大切さを理解させ、意見の出しやすい雰囲気を作り出すよう指導する。

【思考・判断】について

例えば、学習したことを挙げるだけで整理したり分析したりできないような生徒には、着眼点のヒントを与えることや分析方法の例を提示する。

